



鶴ヶ島市立西中学校

Q

今後の学校教育の在り方について

こばやし
小林ひとみ 議員



A

オンライン学習の実現に向けて検討を進めていく

- 問** 今後、オンライン学習にどのように取り組んでいくのか。
- 答** オンライン学習は、臨時休業期間中でも児童・生徒の学びを継続させる方法として有効であると考えている。今後、各学校で教員のスキルアップや、ガイドラインの構築等の課題の解決を図りながら、実現に向けて検討を進めていく。
- 問** 授業時間の確保は。
- 答** 家庭訪問などの行事の見直しや中止等により、年間指導計画の再検討を行った。また、夏季休業日の短縮や、学級、学年閉鎖を見越して確保している余剰授業時間により、今年度は対応していけるものと考えている。
- 問** 児童・生徒の健康管理は。
- 答** 保護者に、登校前の検温や

- 健康観察の実施などをお願いしている。また、体調不良を訴えた場合には、別の部屋で保護者の迎えを待つこととしている。
- 問** いじめや不登校などの相談体制は整っているか。
- 答** 指導主事やいじめ等対応支援員による学校訪問を実施し、いじめの早期発見や不登校の未然防止のための指導、助言を行っていく。
- ◎その他の質問 高齢者の健康維持について

A

環境に優しい農業を進め、地産地消や付加価値の向上を図る

Q

安全・安心、安定した食料確保のために

いしづか
石塚 節子 議員



- 問** 鶴ヶ島市の耕作放棄地の実態と農家戸数減少の要因は。
- 答** 平成27年度実施の農林業センサスによると、耕作放棄地は151軒である。農家戸数の減少は、農業従事者の高齢化と担い手不足が要因である。
- 問** 担い手を確保し、鶴ヶ島市の農業を発展させる方策は。
- 答** 新規就農支援事業を展開し、農業に携わる方の確保に努めた。今後も農業に携わる市民や企業の声聞き、寄り添い、共に考えながら鶴ヶ島の農業を守っていくと考えている。
- 問** 特別栽培、有機栽培の促進、支援は。
- 答** 現在、特別栽培農産物に認



太田ヶ谷のトウモロコシ畑

- 定されているお茶及びトマト以外にも、ゴボウやネギ、里芋の栽培を農家に働きかけて認定を目指す。また、有機野菜は環境に優しい農業の普及を推進し、地産地消や農産物の付加価値の向上を図っていく。
- 問** 地場農産物の給食への供給は。
- 答** 決まった量を決まった時期に安定的に納入する必要があるため、現在の使用率は約10%だが、10年後には20%まで引き上げられる体制を目指す。
- ◎その他の質問 地球温暖化に歯止めを